

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

●第55回● チーム世界戦

2年前の東京開催から早2年。私もドイツに移り住んでもうすぐ2年。またチーム戦がやってきた。詳細は既に連珠世界に掲載されているので、珠友には裏話を中心にお伝えしよう。

北京にはもともとドイツから行く予定だった。しかし、直前になって日本出張が決まり、日程の都合で大阪から行くことにした。その結果、日本人より安く行けることになった。会社経費でドイツ―東京、北京―ドイツのチケットを取ったからである。しかもその方が東京往復より安い。実は乗り換えれば通常の出張でも北京経由ならぐっと安くなる。体が疲れるのでそんなことはしないが、チケットがあまりに高い場合は使

うこともある。

4月28日、大角名人と京都駅で待ち合わせて関空に向かう。関空快速を使えば安く快適に行ける。今回のチーム戦は大角君の出来如何だと思っていたので、極力緊張を和らげ調子が上がるように、研究局面の話などしながらの旅だったが、果たして役立ったか？

関空は連休初日というところで混んでいるイメージだったが、午後だったせいかった。中国東方航空という格安航空会社での便。日本の航空会社の半額ぐらいだ。荷物預け入れのこと。スリッケース重量は意図的に減らしていたので、大丈夫だと思っていたら、 25.5kg の表示。すると横から久保さんが、「この重量は大丈夫なんですか？」と新人の受付嬢に聞く。ちょっと久保さん、余計な突っ込みはしないでよ！（につ

こり笑って大丈夫ですと答えたのだが、あとでベテランの人から 25.5kg でもオーバーはダメと訂正された。結局、ビジネスクラスの席を確保していたことで助かった。飛行機でのエピソードは連珠世界に書いてあるが、そんなこんなでようやく北京に到着。

<関空で飛行機を撮影>



翌29日。りんさんと一緒に地下鉄に乗って天安門まで行った。切符を買おうとしたら自販機には硬貨しか入れられず、係員には英語が通じない。りんさんの持

っていたガイドブックにデジット式のカードがあることを発見し、指差しで購入した。しかし、地下鉄を何回も乗り換えなければならず、そのたびに大量の人に邪魔される。1時間ぐらいかけてようやく到着したが、すぐさま引き返すことに。夕食と開会式が迫っていたためだが、結局開会式は行われず、単なる夕食会であった。

<天安門（ちょっと見ただけ）>



5月1日。いよいよチーム戦の開幕。いきなり優勝候補の中国1と対戦するこ

とになった。さっそく中村氏が勝ち名乗り。あこちゃんを迎えに行かなくてはならないので途中で抜けたが、帰ってみると幸先よく勝ち越してあった。2回戦も他のテーブルを含め観察してみた。中国2、3が無気味であったので見てみたが、中盤以降の打ち方に未熟さがあるように感じられたし、序盤もまだ知識が少ないようであった。しかしまだまだ若い中国勢、今後も飛躍的に伸びるであろう。

翌2日、さすがに見ているだけでは暇になるので、あこちゃんと共にショッピングモールのマッサージ店に。中国と言えばマッサージだろう、と勝手に思っていたのでどこかで行きたかったが、ショッピングモールの探したら見つかった。脚マッサージを受け、すつきりして帰ってきた。実は翌3日にも同じ店に行くことになった。今度は全身マ

<気持ちいいマッサージ>



ッサージ。手に油を塗ってこすって発熱させるというものだったが、やっぱり気持ちいい。

今回台湾チームには女性が2名とも強い。チェンさんはロシアのエピファノフを破るなどかなり強く、スングさんは田村君をすんでの所まで追い詰めた。他のメンバーも含め全員とはその後フェイスブックで友達になった。やっぱり女性がいると華があつていい。全世界で女性の競技人口が増

<台湾チーム女性陣+あこ>

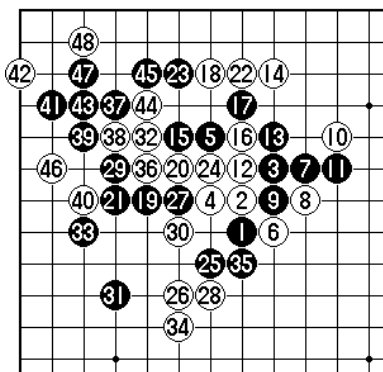


えることを願っている。

その田村君、今回はラッキーボーイだったのだが、見ている方ははらはらする。5回戦のホベマギ戦をご紹介します。

溪月八題は中村、中山も好んで打っているのが日本チームとしての作戦でもある。白6までは昨年の世界戦でも現れているが、黒7の方が打ちやすいというのが最近の研究である。黒15から21はいかにも研究してきましたという手なので、

<黒田村、白ホベマギ>



これはもう勝ったかと思つて見ていると、ホベマギもしぶとく防いでくる。

しかし、黒41から引き出してようやく勝ちを見つけたかと思つていたら、黒47?という大失着を出してしまった。(以下満局)

ここは48とトビ三を打つて以下全四追いだったのだ。なぜこの手が読めないの?と心配になった。しかしである。最終10回戦、優勝のかかる一戦で何とこれと同じ局面になり、今度はしっかりとトビ三を打つて勝っている。やっぱりラッキーボーイだった。